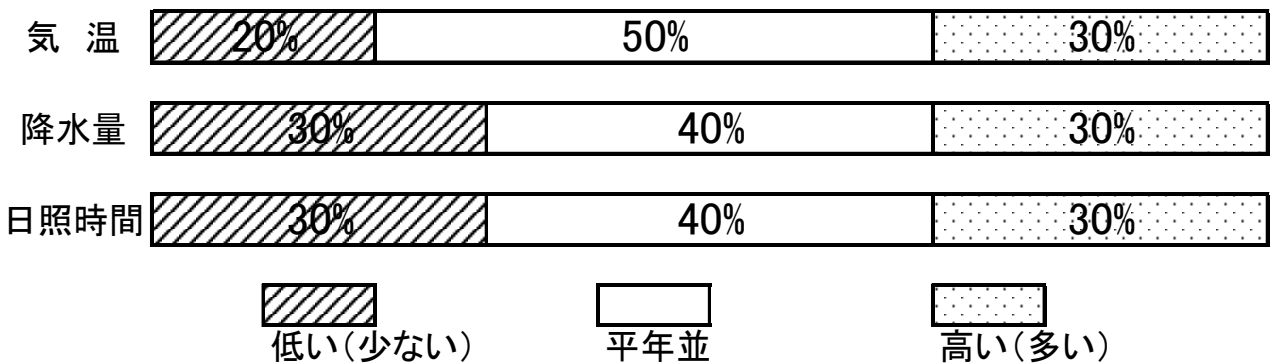


平成24年度 病害虫発生予察情報 発生予報第2号（5月）

平成24年4月27日
島根県

予報の概要			
区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	ムギ	さび病類	平年並
		赤かび病	平年並
		うどんこ病	やや少ない
	イネ	ヒメトビウンカ	平年並
		ニカメイチュウ	少ない
		イネミズゾウムシ	平年並
果樹	ナシ	黒斑病	平年並
		黒星病	平年並
		シンクイムシ類	平年並
		ハマキムシ類	やや少ない
		ハダニ類	多い
		カキ	灰色かび病
野菜	タマネギ	かたアザミマ	平年並
		ボトリクス属菌による葉枯れ	少ない
	イチゴ	べと病	やや少ない
		腐敗病・軟腐病	多い
		灰色かび病	やや多い
		アブラムシ類	平年並

中国地方1か月予報(4月28日～5月27日・広島地方气象台4月26日発表)
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



A. 普通作物

1) ムギ

(1) さび病類（小さび病、赤さび病）

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

平年並

予報の根拠

- ① 4月26日現在、巡回調査地点において発生は確認されておらず、発生量はほぼ平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 赤かび病

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

平年並

予報の根拠

- ① 4月26日現在、巡回調査地点において発生は確認されておらず、発生量は平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) うどんこ病

- 予報内容
発生地方 県内全域
発生量 やや少ない
① 4月26日現在、巡回調査地点において発生は確認されておらず、発生量は平年に比べてやや少ない。
② 向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

2) イネ

(1) ヒメトビウンカ

- 予報内容
発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 平年並
予報の根拠
① 予察灯への飛来は、4月第5半旬まで認められない。
② 4月中旬のすくい取り調査では、捕獲数は0.54頭/20回振（昨年同期0.42頭）、発生圃場率は32.1%（昨年同期12.9%）で発生量は昨年と同程度である。
③ 向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) ニカメイチュウ（第1世代）

- 予報内容
発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 少ない
予報の根拠
① 予察灯、フェロモントラップへの飛来は、4月第5半旬まで認められない。
② 前年の第2世代成虫発生量は平年比3.9%で、越冬量は少ないと考えられる。
③ 向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) イネミズゾウムシ

- 予報内容
発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 平年並
予報の根拠
① 予察灯への飛来は、4月第5半旬まで認められない。
② 前年の新成虫の誘殺数はほぼ平年並みであり（平年比56%）、越冬成虫量は平年並みと考えられる。
③ 向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

- 予報内容
発生地方 県内「二十世紀」栽培地帯
発生量 平年並
予報の根拠
① 4月27日、県予察圃場では発病を確認していない。
② 4月25日の巡回調査では発病を確認していない。
③ 向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 黒星病

- 予報内容
発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 平年並
予報の根拠
① 4月27日、県予察圃場では発病を確認していない。
② 4月25日の巡回調査では発病を確認していない。
③ 向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) シンクイムシ類

- 予報内容
発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 平年並
予報の根拠
① 初飛来日は4月12日で平年並みである。
② 前年のナシヒメシンクイ第3世代成虫の誘殺数は平年並、越冬量は平年並みと考えられる。
③ フェロモントラップ（安来市）でのナシヒメシンクイの誘殺数は平年並みである。
④ 向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(4) ハマキムシ類

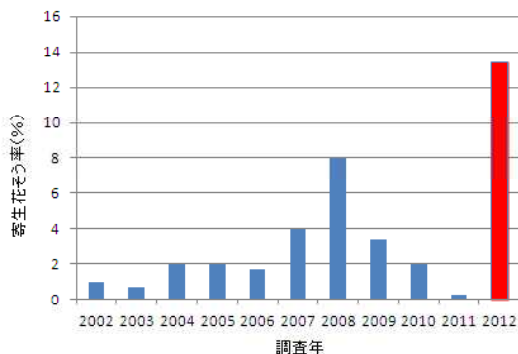
予報内容
発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 やや少ない

予報の根拠
①フェロモントラップの初誘殺は4月16日で平年並みである。
②向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(5) ハダニ類

予報内容
発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 多い

予報の根拠
①バンドトラップ調査ではカンザワハダニの越冬量はやや少ない。
②4月下旬の巡回調査(安来市)では寄生花そう率は13.4%(平年2.5%)と多い。
③主要種はクワオオハダニである。
④向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。
④ハダニ類に対する防除が行われていない圃場が多い。



ナシにおけるハダニ類の寄生花そう率の推移

防除上の注意：クワオオハダニに効果がない殺ダニ剤があるので薬剤の選定には注意する。

3) カキ

(1) 灰色かび病

予報内容
発生地方 県内カキ栽培地帯
発生量 平年並

予報の根拠
①4月23日の巡回調査では発病葉率0.3%(平年1.5%)で平年並みである。
②向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) カキクダアザミウマ

予報内容
発生地方 県内カキ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠
①4月下旬までに黄色粘着トラップで越冬成虫の誘殺は認められない。
②4月24日の巡回調査では巻葉被害が認められない。
③向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

C. 野菜

1) タマネギ

(1) ボトリチス属菌による葉枯れ

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 少ない

予報の根拠
①巡回調査地点における4月下旬の発生量は、発生圃場率0.0%(平年8.0%)、発病株率0.0%(平年0.3%)と平年に比べて少ない。
②向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) ベと病

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ①巡回調査地点における4月下旬の発生量は、発生圃場率19.2%（平年16.9%）、発病株率0.1%（平年1.1%）と平年に比べてやや少ない。
- ②向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) 腐敗病、軟腐病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 多い

予報の根拠

- ①巡回調査地点における4月下旬の発生量は、発生圃場率65.4%（平年61.4%）、発病株率6.0%（平年1.6%）で平年に比べて多い。
- ②向こう1か月の気象は本病の発生をを特に抑制する要因とはならない。



防除対策

- ①圃場を見回り、発生状況を把握する。
- ②発病株は抜き取り、圃場外に持ち出し処分する。
- ③本病の発生が認められる圃場では、薬剤防除を行う。
- ④貯蔵中の発病を防ぐため、収穫は晴天日に行う。

2) イチゴ

(1) 灰色かび病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや多い

予報の根拠

- ①巡回調査地点における4月下旬の発生量は、発生圃場率21.0%（平年8.9%）、発病株率0.9%（平年0.4%）で平年に比べてやや多い。
- ②向こう1か月の気象は本病の発生をを特に抑制する要因とはならない。

(2) アブラムシ類

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ①4月下旬の調査では、発生圃場率は25.0%（平年21.0%）、寄生株率は3.8%（平年5.9%）で発生量は平年並みである。
- ②向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

【参考となる事項】

※最新の農薬登録状況

独立行政法人 農林水産消費安全技術センターホームページには、農薬の登録や失効に関する情報、農薬登録情報検索システムなどが掲載されています。
農林水産消費安全技術センターのアドレスは <http://www.acis.famic.go.jp/>

島根県病害虫防除所

(島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫グループ)

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページアドレス <http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>

e-mail boujyo@pref.shimane.lg.jp